

令和6年4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859)

## — ナラ枯れに伴うキツツキ類の増加 —

青梅市内のコナラ、ミズナラ等のナラ枯れが近年増加しています。ナラ枯れとは、ナラ類・シイやカシ類等の樹幹にカシノナガキクイムシが潜入してカビの一種であるナラ菌を樹体に感染させ、菌が増殖することで水の吸い上げる機能を阻害して枯死させるという伝染病です。一本の木に大量のカシノナガキクイムシが<sup>せんじゅう</sup>穿入することにより被害が発生します。

青梅市では、市所有地の公園・緑地等で発生しているナラ枯れの対策が数年前から行われています。青梅丘陵ハイキングコース付近の危険木の伐採も進められてきました。青梅市環境部公園緑地課みどり推進係によると、青梅の森で62本、永山公園で56本、風の子太陽の子広場で42本が令和6年1月末までに伐採されました。

このようなナラ枯れが始まっている丘陵地で、令和5年の秋頃からアカゲラ（写真1）が多く見られるようになりました。冬季にはオオアカゲラ（写真2）も見られ、アオゲラ（写真3）、コゲラ（写真4）も目にすることが多くなりました。

アカゲラは1年中見られる<sup>りゅうちよう</sup>留鳥ですが、繁殖期には御岳山のような山地に多く、冬季に河川敷や丘陵地に移動してくる個体がありますので、冬になると観察しやすい野鳥です。オオアカゲラの場合は山地以上の標高で1年中見られ、冬季になるとまれに丘陵地に移動してきます。冬になると見られる野鳥ではないので、丘陵地にエサが豊富だったと考えられます。アオゲラとコゲラは低地から山地まで一年中見られる留鳥です。この冬はアカゲラのそばで行動することが多く見られました。

これらキツツキの仲間は、木に棲んでいる幼虫などを好んで食べます。特にナラ枯れが進み始めたコナラなどの木に多く見られ、「コンコン」と大きな音を立てて幹を掘りながらエサを探していました。力の弱いコゲラは枯死木を中心にエサを探していました。



写真1ーアカゲラ



写真2ーオオアカゲラ

「青梅市の自然Ⅱ」昭和 57（1982）年のオオアカゲラに関する資料によると、「主として亜高山帯に生息するが冬季は低い山に見られる。1981 年 3 月御岳山ロックガーデンで観察。アカゲラより大きく、数は少ない。冬鳥（留鳥）<sup>ふゆどり</sup>食性 木の実、昆虫（カミキリ類）」となっています。冬鳥（留鳥）となっているのは、亜高山帯（主に 1700m～2500 m）で生息し、冬になるとみられる野鳥だが、標高の低い山地で繁殖している個体もいるということです。令和 5（2023）年繁殖期には、御岳山の産安社付近で観察しました。標高約 890m 付近で繁殖していたということです。冬季に標高 200m 付近に移動してくることはおかしくありませんが、日本野鳥の会奥多摩支部「多摩の鳥」（2000～2012）によると「2000 年以降では標高の低い丘陵部には記録がない。アカゲラやアオゲラに比べると観察例が少ない。」となっていて、笠取山、三頭山など標高の高い地域での観察例が多く掲載されています。

ナラ枯れによって大きく変化を強いられている丘陵地ですが、木の中の昆虫を好んで食べるキツツキ類の生息環境が良くなり、今後も観察例が増加する可能性があります。

キツツキ類の増加によって、カシノナガキクイムシ対策に貢献できることを期待したいです。まだまだ終わりが見えないナラ枯れですが、コナラの大径木が切られ明るくなった林内にはコナラの幼木が生えてきています。



写真 3 - アオゲラ



写真 4 - コゲラ

（文責 荒井悦子）

#### 引用文献

影山豊. 1982. 青梅市の野鳥. 青梅市の自然 Ⅱ. p126-127. 青梅市郷土博物館.  
多摩の鳥. 鳥類目録 2000～2012. p174. 日本野鳥の会奥多摩支部.